

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第14回）「体力の向上」部会 要点録

開催日時	平成22年8月30日(月) 午後3時38分～午後6時32分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	米津光治、赤木宏行、中村 隆、内田秋男、工藤智昭、難波民雄、田中泰明、畑 陽子（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	渡辺浩一 指導主事

### 1 挨拶

#### 部長

この部会もいよいよ最終段階に入ってきたが、それぞれの分野で体力向上と小中一貫の特性を十分に生かした内容で、具体的な指導案、指導計画を作成していただいている。これから先の一貫教育の内容に資するものができればとてもありがたい。

#### アドバイザー

この向上部会の資料もだいぶ形になってきている。たぶん今日で先生方に資料がひととおり出揃う。そういう意味では今日は大変大事な会になる。

#### 事務局

前回までに提案いただいた資料が、小学校の体育のTT、マット運動。きょうだい学年等による健康安全・体育的行事。それから健康な体づくりを目指した授業で、田中先生と畑先生。本日、畑先生からの提案がある。この時点でひととおり出揃った資料を総括してみる。次回9月10日に一つの全体像を皆さんで共有していただいて、最終調整等があればそこで意見をいただく。9月30日、最終的にご確認いただきたい。

### 2 協議

#### 委員

前回いろいろ教えていただき、訂正をした。指導案はほとんど変えなかったが、3枚目は写真を撮った。こんなかたちで絵本と板書をやった。4枚目のチェックカードは見本のやり方などをエクセルで作ってある。それを配布すれば使い方がわかる。

#### 委員

誤字を直し、付け足したのが、学習カードと学習資料としては単元通して8回扱いで、8回分一挙に書けるような細かいものを作ってみた。これは例でアレンジできる。学習資料としてもう1枚、それぞれの技が入っていて、見やすそうなものを、開三小が21年度の研究発表会で発表したものから抜粋した。これは区内の小学校なので、著作権の問題はないということで、選んで載せた。

#### 事務局

それでは本日の協議に移りたい。まず、健康な体づくりを目指した授業案ということで、中学校の提案。

#### 委員

田中先生から枠組みをいただいた。2枚目のカードをチェックして、そのあと内容について意見をいただきたい。カードは題名を変えて「健康チェックカード」。中学校用ということで「就寝」とか「起床」といった言葉を変えた。一番違うところは、「便」ではなく、この欄を「運動」に変えた。あと教えていただきたいのは、ポイントについて。とりあえず枠組みはこのかたちで作ったが、ここまではよいか。

#### 事務局

田中先生の第Ⅰ期・第Ⅱ期のチェックカードにつながるかたちで、第Ⅲ期。第Ⅰ期・第Ⅱ期と比べて、「排便」についての設問が「運動」に変わっている。栄養や休養、運動という面に焦点化して、このカードを作成した。

畑先生とのやり取りで、第Ⅰ期、第Ⅱ期にある質問の項目をそのまま踏襲できたらよいということだった。たとえば中2、中3に「今日排便があったか」という設問をした場合、それを他の生徒が目にしなければ可能ということもあったが、思春期にこの設問にそのまま回答してもらえるかどうかということもある。それから、中学校の保健体育の中で生活習慣を扱うところがあるが、ここでは大きく三つ、休養と栄養と運動で生活習慣を整えようとする。中学2、3年で敢えて運動に視点を当てることも一つということで、提案していただいている。やはり「排便」で9年間を見たほうがよいという意見もあると思うが、どうか。

#### 委員

いいのではないかな。私はどちらかというと、教室なりどこかに毎月のように掲示してもいいと思っている。そのことを考えたら、「排便」を敢えて入れる必要もない。

#### 部長

確かに思春期でそのあたりの気の持ちようがどうかという課題はある。ただ健康ということを見ると、排便の有無は一つの視点。そういう意味で、Ⅲ期で「運動」となると、途中で切れてしまうような気がする。たとえば中学の場合、修学旅行とか宿泊行事の前に、1週間前から健康状態をチェックする。そのときに、排便の状況をチェックする学校もある。そういうことから健康面のチェックと理解してもらえれば、それほど大きい抵抗感はない気がする。この部会の中では「日常的な活動の中で」というのがキーワードになっているから、敢えて中学生で「排便」という表現をしなくてもよいか。それよりも「運動」のほうが興味・関心は高くなるかもしれない。

#### 委員

これはデータで渡すのならば「運動」にしておいて、「排便」に変えても大丈夫な実態であれば、変えてもらう。そこは柔軟に対応すればいい。指導資料なので「これでなければいけない」

ということはない。

#### 委員

1枚目、今のかたちで表をⅠ期・Ⅱ期と合わせてやっていきたい。では1枚目のプリント、Ⅲ期。まず授業で、担任の先生方が学活等で指導ができるような設定で、あとは保健と並行して進めていけるように案を練った。①、中学校ではちょうど保健体育の項目で「健康な生活と病気の予防」がある。小学校が「けがの防止」と書いてあったので、そのまま記入した。②実施学年は7年生の1学期・1時間を使って、学活等でできれば。③ねらいは、学習指導要領の中学校版を載せた。小学校版は田中先生のⅠ期・Ⅱ期のところを出ている。次に「健康な生活と病気の予防」の学習を振り返るということで、学習カード等、もし何かプリントが必要であれば、保健のプリントを学活等で使ってもらえればと思う。その後、「運動時間の表を作成して掲示する」とあるが、これは提案である。④本事例と体力向上（健康な体づくり）との関連ということで、小学校の枠組みそのまま、6番目に「学級活動」、「報告会」とある。ちょうど1から4まで「健康の成り立ち」から始まって、「運動」、「食生活」、「休養」と4時間分あるので、そこを行う。5番目に「生活習慣病とその予防」、そして最後に学活で行えるような報告会を含んだものを検討してみた。「交流」とあるが、中1にまず授業を行って小中一貫で連携が必要であれば、小6などに運動時間等のインタビューをして、部活で指導するときなどに生かせばよい。中学校と6年生だと、明らかに中学のほうが運動時間が多いと思ったので、その必要性があるのか。内容は、⑤本事例の小中一貫というところで、今言ったことを書いた。

#### アドバイザー

そもそもⅢ期は中2、中3。これはⅡ期のことじゃないか。

#### 事務局

6年生に係るところがすべてⅡ期になる。実施学年が8年生。1点は「健康の成り立ち」で、「生活習慣病と予防」と兼ねてあるが、今の指導要領上これを扱うのは中3か。特に保健の授業と関連させてこれを実施するか、特に関連に着目せずに実施するかで変わる。

#### 委員

中学校はよくわからないが、9年生で扱う内容であれば、やはり9年生で扱う必要がある。突飛なことはやめたほうがよい。私がⅠ期・Ⅱ期の指導案を書いた流れだと、このチェックカードは基本的にはあまり授業では使わないから、これを中心に授業をしないほうがよい。Ⅱ期で上の学年との交流を考えたのは、上に上がっていくときのとまどいや、イメージがしにくいことを質問して、意思疎通ができるのではないかと考えた。Ⅲ期が一番難しい。この内容はあまり必要がないというか、交流する必要がどこまであるか。

#### 事務局

学級活動で取り扱う内容が、健康チェックカードを始めるにあたり、オリエンテーション的な部分も含めて行うところもある。授業にどうしても連結することにあまり縛られなくてもよいのではないか。また「交流」でⅡ期の6年生とのインタビューの位置付けは、今の流れでい

くと特に設定がなくても、学活とカードで満たされているのではないか。

#### 委員

担任が、学活の時間にこの授業1時間分をできるとよいのでは。でも私が保健体育科で、生活習慣病のことがわかっている、それプラス学活で考えたのもある。渡邊先生のほうから、担任がやるときに学活の中で盛り込んでいただきたいという指導を受けた。小学校との「交流」がこじつけのようだが、必要か。部活動で運動量の時間の違いがあることを中学生がわかれば、小学校の6年生と部活交流をしているときに指導がしやすいということで記入した。

#### 委員

学習内容は小学校でもまったく同じ。「健康な生活」「病気の予防」もある。小学校と中学校でやることの違いは何かということを確認にしないと、一貫校としての意味がない。

#### 委員

でも学習指導要領にも入っているので、そこは敢えて抜かしていく必要はないと思う。

#### 委員

では何が違うのか。その違いを明確にして指導しないと、子どもも「また同じか」となってしまふ。もう一つ、一貫校の良いところは、過去の自分を振り返ることができる。6年のときの自分、5年のときの自分はどうだったのか。その記録を一貫校として残していければ、それがこの保健の内容に生きてくる。スポーツテストの記録もそう。スポーツテストのアンケートの部分があるが、学習の中にその部分を振り返っていける部分が残ればいい。一貫校になった場合に、3～9年の記録をファイルしていく部分もあってよい。

それから生活習慣病の予防と、本時のほうを見たときに、運動時間ばかりにいつている。運動時間との関係でよいのか、これだけでよいのか。

たぶん6年生あたりでやることにプラスアルファの部分が出てくる。だから既習のことは簡単に触れる程度で、そのプラスアルファの部分の内容を濃くしないと意味がない。そのへんは、小学校の授業も検討する必要がある。小学校の病気の予防は、インフルエンザ、HIV、喫煙、飲酒、薬物が入ってくるが、小学校で一回勉強していることプラス何が積み上げなのかという部分がないとだめだ。

#### 委員

この前の5年生で、保健とか健康に関する授業をやって、プラス1の学級活動で入れたのは、報告会で危険な箇所をインタビューして実践に生かそうという意味合いが強い。第Ⅱ期で田中先生が書いてくれたので、第Ⅲ期で同じように保健的な学習をやったら、より実践力をつけるための学級活動ではどうかということが話の出発だった。だからここで交流でなくてもよい。

前回、田中先生が「けがの防止」ということで、危ないところを校内で探してインタビューして「ここは気をつけよう」という意識づけを、自分たちで働きかけられるように力をつけていこうという意味合いで、学級活動を設定した。今回も中2、中3で、知識として覚えたものを実践するために、学級活動を続けてできたらというニュアンスで授業を組んだらよい。第Ⅱ

期で作って、第Ⅲ期の子たちでも事例としてやることで、より実践力がつく。中学校と小学校では内容が全然違う。言葉がマニアックになってくるし、リアルになることも出て、変わっていくのは確かで、やらなければいけない。そういう実践力を高めるための1時間の学級活動プラスアルファの時間としたら、わざわざ交流する必要はない。逆に自分たちでできない話し合いをさせてやらせるという取り組みもよいのではないか。上の学年になればなるほど、自分たちで考えさせて取り組めるような活動のサポートの授業があればよい。

#### 事務局

内容で、学習の流れから生活習慣病を取り扱う。ここで今の自分の運動時間や運動量などを少し意識化して、このチェックカードに入っていくという流れになっている。

#### 委員

③のねらい後の二つが、ねらいではない。これは活動になっているので、やめたほうがよい。私も自分のものを見直したら、活動になっているところがあったので、今度直してくる。

#### 委員

1枚目のところまでで、中学校の先生方に意見をいただきたい。授業の流れに入る前に、中3の学活で1時間ということだが、小中一貫として、どういう最終目標で実践に持っていくのか。

#### 委員

学級活動が1時間でないとだめか。一貫を考えていくときに、その学級独自でやるもの、学年でやるもの、複数の学年でやるもの、全校でやるものという種別をして、行事等を振っていくことが大事だ。8、9年生が自分たちで何かをやるときは、一貫の場合には指導的な立場でほかの学年と関わっていくことはできる。たとえば5、6年生と一緒に、自分たちの作った運動をしていくとか、「こんな運動があるよ」と紹介して、全校の運動を盛んにしていくということではできると思う。生徒が計画を立てて、Ⅱ期の子たちに下ろして、それを紹介していくみたいな活動はできると思う。ただ1時間では絶対に無理。

#### 部長

視点を交流的な内容にしていくのか、一貫校の特徴を生かした自分を省みる時間にしていくのかによって、時数も違ってくる。9年間の最終的な仕上げとして、自分を見返る時間にするなら、1時間でできるのではないか。今の話の流れの中で、たとえば④の内容の下の「交流」を消して、最後の6時間目のところで今までのデータを見て自分自身を見ていく、自分の発達段階を見ていく。その中で健康・安全もからめながら振り返っていく。そのような時間なら、1時間でもできるのでは。Ⅱ期で交流をメインにして、Ⅲ期は総括的なところで自分自身を見つめていく時間でもよいのではないか。

#### 委員

チェックシートをもしやっていたら、積み重ねがある。たとえば睡眠はどう変容しているの

か。運動能力はどう変わってきているのか。食生活はどうか。中3で知識面を勉強して、自分の今までの9年間の生活を振り返らせる。そして高校生に向けて、大人に向けて、どうしていくべきかを考えさせる。しかも小中一貫で9年間のデータが体力面、私生活面等、いろいろな面で積み重ねてあるのであれば、なおさら価値は高い。それが小中一貫のデータが累積できる良さであるし、9年目としての振り返りができれば、知識・理解の総決算としての位置付けは理想形だと思う。

#### 委員

チェックシートもスポーツテストの記録もあるし、健康の記録も9年間分ある。それを見て「自分は何年生から何年生までの間にすごく体が成長している」とか「ここでこの運動の記録がすごく伸びた。たぶん部活をやったせいかな」とか、いろいろなことを振り返って、これからの自分のあるべき姿を考えるという時間なら、個別に振り返りができる。

#### 部長

ただ、その課題は、この内容で1時間目から5時間目までは保健体育科の教員で進める。そして6時間目の総括のところでは手を離れて学年全体にもっていかなければいけない。そのあたりの教員の認識を十分深めないと、意図がうまく伝わらない可能性がある。一貫教育校の教員としての各教科とのからみをしっかりと認識させておかないと、意図がしっかり伝わらない。

#### 委員

最終的な目的が見えてきたので、9年分のデータを生かして自己を振り返る時間で1時間、各担任の先生に学活でやってもらえばよいのではないかと。保健体育科から担任へ、きちんと目的を伝えておく必要がある。

それでは⑥に入る。これが指導案の略案である。1番から、生活習慣病の学習を振り返る。生活習慣病の発症とか進行に関係する病気のことなどは、保健体育科からプリントを1枚準備する必要がある。二つ目で、子どもたちの生活習慣病が最近目立ってきていることを簡単に担任に触れていただく。右側が配慮事項で、一つ目は、体に悪影響が出てくるということと、「食習慣」、「運動習慣」、「休養」についてもう一度確認する必要があるということ。2は、本時の学習内容を知ること。最終的には9年間の自己を振り返ることに持っていくが、小学校でやっている健康のチェックシートをもう一度「記入させる」でよいか。

#### 事務局

「運動」が入る場合は、ここは変更になるので説明が必要ではないか。

#### 委員

チェックシートの健康チェックカードと、チャート式の紙の説明を3番、4番でしていく。特に変更箇所は運動時間についてで、Ⅲ期で一番注目したいところが運動時間なので、ここを記入していきたい。右側の配慮事項で、今生徒たちの二極化がすごく激しいことに触れたい。もう一点、いろいろな場所でスポーツに触れている人がいるということも指導の内容で触れられるといい。最後に5番目、今回の授業のテーマで、「9年間の自己を振り返る」へ言葉を変え

たい。ここでは体力テストの表、今までの小学校から上がっているチャート・チェックカードという3種類の資料を用意して、最後に振り返ることに変更したい。最後のまとめとして、この1時間の学習を振り返って、今後生活習慣病等にならないように、これから高校ではこのようにするとか、最後にもっていきたい。

#### 委員

私がおし指導案を書くのであれば、メインが「自己の学習を振り返る」となったので、「本時の学習の内容を知る」のところに、自己の体の調子や生活習慣などの振り返りをさせるのが大前提になる。ここでチェックカードを記入する時間は、非常にもったいない。「自己を振り返る」を2番にもって行く。そこにいろいろとあると思うが、クラスの中で発表させたりして、学習が終わるみたいな組み立てのほうが自然かと思う。あまり運動にこだわりを持たなくても、やってあることを前提で話を進めたほうが、流れる的には厳しくない。

#### 委員

なぜ運動だけに限定したのか。

#### 委員

チェックシートの中に入ったからだと思う。もうやったという前提で指導案を表していったほうが嘘はない。チェックシート以外にも、体力テストや健康の歩みなどを配布して、見る視点をあげて、どう思うかという話し合いをさせたほうが、意味が出てくる。

#### 委員

チェックをここでする必要がない。データを見て自分の分析をする。こんなにやってしまうと時間が足りなくないか。1番もいらなくらいだ。

#### 委員

見させ方というか、視点が非常に難しい。資料を与えて、それをどう見るのか、見せるのか、見るポイントを出すのかという視点が必要ではないか。

#### 委員

ワークシートみたいなものに自分の運動面の特徴等を書かせる。

#### 委員

結構体力テストの答えが出ている。

#### 委員

だいたい出ているので、それをもう一回まとめ直すことで、運動面とか休養面とか、自分がこんな感じと出てくるのを見て、「自分はこんなだったのか」と。それでグループで話し合ってもいいし、発表させてもいいし、最後に自分はこうなりたいということをまとめる。とにかく自分の振り返りを中心に。1番も、本当にやるならわずかでいい。

データはもう揃って、健康チェックカードでチェックしてあるという前提で、自分の分析をメインにする。最初の1番で「今日はこんな目的でこんな授業をやるよ」、「こんな分析の仕方だよ」とか、「まとめる表はこんな使い方だよ」と指示する。そして自己分析に入って、その後グループ交流なり、発表する。最後にまとめとして、自己分析で終わる。

中3くらいだと、1年生からの変容で、たとえば身長が増え方を見てグラフにするとか、いろいろな作業のさせ方がある。9年間のあゆみはかなり違う。それをやっていくだけで、かなり効果もあるし、驚きもあると思う。でも1時間では時間的に苦しい。

#### 委員

運動時間だけではなく、全部相対的に見ていく。全部入りを見せて、グラフか何かに表す。

#### 委員

なぜ運動時間と生活習慣病になるのか。もっと広い視野で捉えたほうが、自分を振り返るにはよいと思う。

#### 委員

基本的に1番は、今日の学習の内容を知ること。その学習内容が今まで9年間の自分の健康・運動などの変容について知る、みたいな感じ。

次に学習の進め方について説明する。僕がやるのだったら、たぶんワークシートみたいなものを見せて説明する。黒板に貼るなりして「今日は9年間の自分の体力とか生活習慣を振り返るよ」みたいに。そして資料を配布して、「どんどん自分で変容を書いていきなさい」と言って作業をさせる。ある程度自分の様子がわかったときに、その後をどうするか、発表させるか、グループで報告するとか、いろいろなパターンがあるが、中学校だったらどうするのか。

#### 委員

そこまでに「健康の成り立ち」として「運動」と「食生活」と「休養」をやっていて、それが欠けると生活習慣病になると。だからそこに着目させて、自分の振り返りをさせればよい。運動時間や、食生活もある。それを話し合わせるか、データを基に自分一人で振り返るのか。たぶん、話し合いをしたほうがよい。それから休養もすごく大事だという話をして、今度は生活習慣病に結びつけていかないと、本時の「生活習慣病の予防」にはならない。

#### 委員

これは違う。今回は「生活習慣病の予防」ではない。

#### アドバイザー

生活習慣病という保健で学習したことと、学級活動を結びつけようとする、どうしてもそういう活動になる。学級活動が狙っている、生徒が当面する諸課題の対応になるかどうか。保健の学習の延長であれば、学級活動の存在意義がなくなってしまう。

たとえば9年生であれば、多くの生徒たちの生活習慣が乱れがちな受験期を捉える。そうすると運動する時間がなくなったり、睡眠時間も不規則になったり、あるいは3食だったのが4



食になったり、いろいろな乱れがある。その中でどのへんに問題があるのか、自分の生活をきちんと把握したうえで、改善すべきところは何なのかをグループや学級で話し合う。みんなで力を合わせて難しい受験期を健康で乗り切っていこう、ということが本来の学級活動の狙いになっていく。

#### アドバイザー

今いろいろな話が出てきて、難しくなっている。たとえば事前にチェックカードを子どもたちに渡しておいて、1週間分をみんなで持ち寄った中で、お互いに気になるようなことを確認するような時間を設けるとか。

#### 委員

では、1番から本時の学習の内容について説明をして、学習の進め方でワークシート。3番で資料配布をして、グループ討議をしたほうがよいか。最後に自己を振り返って、6番目に学習を振り返ることも含めて、今後、高校へ行くとき等のことをもっていくということによいか。

#### 委員

自分の生活習慣・健康を振り返って、仲間と相談しながら、自分で改善を考えてやっていけば、9年間も見通せるし、その時間に自分が得てきた知識も生かしながらできる。そうなれば学級活動の意義がある。そんなかたちでできれば理想だ。中3だからできるのではないかな。

#### アドバイザー

夏と冬の長期休業に入る前や受験期などに、3年生の担任はこういうことを1時間取り上げて、今も指導している。だから、中3の学級活動で扱うとすると、そのあたりを具体的にイメージしたほうが、リアリティもあるし具体性も出てくるのではないかな。先ほどから指摘があるように、既にⅠ期・Ⅱ期で日常生活習慣についてはチェックシートを使って学んでいる。できない現実の生活がある中で、中学生としてどうしたらよいかを、学級活動の中で取り上げていくことがよいのではないかな。

#### 事務局

この授業に入るときに、過去に小学校から続けてきた生活習慣のチェックカードの蓄積がある。それを見て、「今までの自分がこうだった」と話し合わせて、今後こういうことが必要だという意識を高めてⅢ期のチェックカードに臨む。それとも、そのチェックカードもデータとしてある中で、総括しながら今後にもっていく。このあたりはどちらが有効か。

#### 委員

月ごとだから、4月から始まって7月にやるので、夏休み前に指導になるのか。また冬休み前とか、受験期前とか。できないことはない。

#### アドバイザー

実際問題としては、中3で言えば夏前の運動習慣と部活を引退した後の運動習慣は決定的に

違う。だからこの時期に理想的に運動をしていたからといって、それが望ましいとは言えない。大事なことは、今も将来も自分の生活習慣が乱れるような場面に出くわしたときに、どうしていくのかを学習させること。

#### 事務局

そうすると、チェックカードの時期が4、5、6、7とあるが、受験期に入る時期でまた取らせてもよい。ここの前期に状況を確認して、今までの自分はどうかだったか、小学校からの蓄積を踏まえてどうかだったかを見つめ直す資料にするということか。

#### 部長

3年生の運動部に所属している生徒なら、夏休みを過ぎたあたりからはもう受験体制に入っている。学級担任も進路指導等で気持ち的な余裕がない。要するに9月以降、12、1月に入ると、学級活動でこれを取り上げる意識がない。だから、健康な生活を維持するためにはこういうことも必要だ、これから先にこういう状況になってくるから、進路を控えて健康な状態を維持するためには、もっとこういうことを意識しなければいけないのだと、6、7月あたりに学級活動の中で指導していくのがポイント。それから中3になると、運動能力もかなり差が出る。体力テストのデータを活用するのもしないのか。就寝時間、睡眠時間、食事の有無などを総合的にデータとして取り扱ってきて、何を子どもたちに考えさせるのが一番のポイントだ。

#### 事務局

懸念しているのが、今までの体力テストを踏まえて「体力について考えよう」ということが別にある。運動面も含めつつ、保健的などところに重きを置いてもっていけると、差別化が取れるのではないか。就寝時間や朝食、起床時間も含めて今までどうかだったか。排便は小学校や第Ⅱ期まではどうかだったか。運動時間も含めて、中2のときはどうかだったか。このあたりを総括して見直せる時間であると、ほかの資料ともかぶるところがなくなる。

#### 事務局

今のイメージだと、授業の始まりのときは「こういう学習をする」というものがある、「今日はこれを使って自分を振り返っていく」というものがある。今までのチェックカードを見て、子どもたちが自分の今までの生活状況を振り返って見つめ直す。そしてそれを何かに表記できる。自分の振り返りが終わったところで、グループで話し合うなり、集団討議が入り、発表があるかないか。そういうものを経て最終的に自己をもう一度振り返って、今後どういう生活改善につなげていくか。この流れで作成いただき、また次回、皆さんにご提示いただきたい。

次に体づくり運動の事例について。

#### 委員

前回の記録を見て、渡邊先生の安全な転び方、身の守り方の運動事例があればよいという話、練馬区のスポーツテストから敏捷性、小学校では瞬発力などはあまりやっていないので、すばやい動きと柔軟性を取り上げて運動例を作った。

前回、前歯の破折事故が多いという話だったので、回転、手の支持、逆さの感覚、そしてバ

ランス感覚と四つに分けて運動例を作った。小学校で柔軟性を高める動きということで、二つ挙げたがよいか。前回、高橋先生が転んだときに安全な身のこなしがあるという話があったが、お任せしてもよいか。ただ小学校のうちから、何かのときに回転できるとか、うで支持ができるとか、バランスがうまく取れるとか、逆さ感覚が育ってくるとか、そのへんがあれば、かなりけがは減るのではないか。

#### 委員

難しいのは提示の仕方。これを資料としてどのように提示するかが一番大きな課題。

#### 委員

たとえば体育の時間に、帯のように必ず準備運動の一つとしてそれを取り入れていく。そういうことだったら可能かと思う。

#### 委員

これは動きの例だ。これはこれでよいが、たとえば「回転系の動き」と提示するのか、練馬区が児童に培わせたい必要な力を高めるための動き、特に破折事故とか、そのために有効と思われる回転系の動きとか。その運動例として提示するのか。

#### アドバイザー

「破折事故の防止に有効と思われる運動事例」みたいなことで出せばいい。

#### 委員

資料の提示の仕方として、どんな目的でこの運動例を集めたかを提示することが大事。

#### 部長

それを明言することで、練馬区の子どもたちの基礎体力の敏捷性とか、不足している部分をみんなが認識できる。それを補強するための運動と銘打ったほうが、意図がはっきり伝わる。

#### 委員

これは、小学校は柔軟性、中学生は持久性を高める運動が入っているが、破折事故の防止にはどうしたらいいのか。

#### 部長

自分の体を支えることができるかが一番大前提だ。それは、高橋先生が専門的に習知されていることだと思う。今回用意したものがうまくタイアップしてできればよいのではないか。

#### 委員

柔道の受け身などもそうだが、瞬間的に体を丸くできないと人間はけがが多い。けがをしないという部分では、この回転系はすごく大事。逆に言うと、手をつかない前転ができないと困る。コロッと転がれることがすごく大事。

**委員**

年配の指導者は、手を使わない前転を子どもに指導できないとってしまう。もしこういうものが必要ならば、器具とかこういうシチュエーションで、こうやらせるといい、というものが無いといけない。それは高橋先生と検証して、事故防止のためにどんな動きが必要で、それをやるためにはこんな指導をするとよいというものがないと。

マット運動の前転の場合は「手をしっかりつきなさい」という指導で、手を使わない前転は裏腹で、いきなり提示されても面食らってしまう部分もある。手を使わない前転や後転は、実際にやらせるとなると安全面で「いいのか」ということが出てくる。

**委員**

破折事故だけではなくて、最近の子は首が弱い。小学校の場合、前転をやると顎が上がって起き上がってくる。これを締められないから頭を打つ。そのへんもまた教わりたい。あとは持久力と投力と瞬発力がある。投力はどうやるのかと一番悩んでいた。

**部長**

投力は技能というより筋力。背筋力とか、上腕骨のあたり。

**委員**

小学校だとボールの投げ方は、やはり日常経験が大きい。投力を高める運動があるのか。

**委員**

ボール遊びでの的当てとか、低学年では何メートルで当たったかとか。自然にボール遊びをゲーム化してやることで、単純なトレーニング的なことではない。

**委員**

小学校はすばやい動きと柔軟性が主かと思う。瞬発力とか持久力とか投力という、中学校になると思う。7年生くらいまでは、すばやい動きと柔軟性をしっかりやって、8、9年あたりで筋力を。あとエクササイズも使える。安全な動きではなくて、体力向上の運動例でいけば、それもあると思う。

**委員**

今は動きの例。運動例となると、もう少しゲーム化したもの。サーキットは工程をいくつか置いて、鉄棒をやったり、走ったりもできる。それが運動例。動きの例と運動例をどちらに絞るか。動きの例であれば、これはベースだから先生たちが授業でアレンジして、自分たちで作らなければいけない。運動例だったら、そのもの自体が実際に行える活動になる。

**委員**

たとえばコンタッチとか、ボールキャッチとか、いろいろな体勢からのスタートとか、それは授業の段階で使えると思う。それをどのように提示していくかの問題だ。

#### 部長

体力要素を全部網羅すると、全部乗せることになる。課題となっている体力要素を補うための運動に今回は絞っていいのではないか。破折防止も含めた体力要素の本区の課題というものをメインに置いて、それをピックアップしていくことでよいと思う。

#### 事務局

項目立てで考えると、一つが破折と、あとは課題となっている4体力要素。これに見合う動きや運動例を提示していただければ、先生方が活用できるのではないか。

#### 委員

これだけで、裏表いっぱいになってしまう。だから項目に区切って、そこに乗せていく感じでいいのではないか。

#### 委員

いくつか項目の柱立てを作ってください。たとえばすばやい動きでどういう項目、柱立てをしたらいいのか。敏捷性1本でいいのか。柱立てをするのだったら、用具を使う場合とか、音楽を使う場合とか。

#### 委員

敏捷性を高める動きで、音楽を使う場合、用具を使う、シンプルで何も無い場合、3個くらい。そんなにいっぱいにならないで、先生のほうでチョイスしながらやっていいのではないか。

#### 事務局

あとは今回提示のない分野で、全身持久力、瞬発力ではどうか。あとは先ほど出た投げる力。的当てゲームというものも。

#### 委員

指導の時期として、1、2年生から体づくりに入っていて、その中で投力を高めたいのであれば、的当て的なことが投力を高める動きには役立つという位置付けで構わない。

#### アドバイザー

あるいは運動例ではなくても。投力は、結局オーバーハンドスローの投げ方の問題。そうすると、たとえば正しい投げ方とか、子どもが陥りがちな躰きのポイントみたいなことを示して、「このへんが指導のポイントになる」みたいなことでもいいのではないか。あまりトレーニングみたいになってしまうと、逆行してしまう。たとえば持久力も、突き詰めていけば、運動を長く続けていけば持久力はつく。あまり意図的な全身持久力の向上のトレーニングみたいにならないほうがよいと思う。

#### 委員

柔軟性は、安全のほうへもっていったほうがいいのか。

**委員**

では渡邊先生と相談して、項目だけ区切って運動例を載せる。例が出ていれば、移動や差し替えは可能。あとは、中学校の例を高橋先生から出してもらおう。

**委員**

ボール投げは、小学校はソフトボールか。中学校はハンドボールだ。そのあたりの差はどうなるのか。ハンドボールは、1年生や女子だとあまり投げたことがない。計測する前に何回かキャッチボールをさせたり、遠投をやらせたりしている。

**アドバイザー**

投力といっても、問題にしているのは遠投力。体力テストから導き出される課題は、先ほどのコントロールとは違う。でも投力というとコントロールだってある。

**委員**

基本的にねじり。女の子はねじれない。だから8段階で教えるそう。

**アドバイザー**

秋田大の佐藤先生は「トルネード投げ」みたいなものを提唱している。

**委員**

最初はそれで全部やるとか、小さな子からそういうものを体づくり運動の中で取り入れてやっていくと、どんどん培われていく。

**事務局**

倒立やバランス系の巧緻性を高めるところが、破折事故の防止にも関わる。敏捷性は入っているので、今の遠投力の解説か、先ほどのトルネードの段階的な投げ方の事例等でも結構。この投能力が一つと、全身持久力、瞬発力のあたりで参考となるような動き、運動事例、もしくは解説でも結構である。破折事故と合わせて5本立てくらいで例示を出していただきたい。

**委員**

これも、一人でやるもの、用具を使うものとか、いくつかに分けたほうがいいかもしれない。

**委員**

新体力テストの活用ということで、指導事例案を作った。第Ⅰ期・4年生、学級活動ということで、単元名が「自分の体力について考えよう」で、ねらいとして、学級活動の目標は省いて、この単元の目標で入れた。新体力テストの結果を基に、自分の体力の特徴をつかみ、これからの体育学習や日常生活の取り組みにおいて、大まかな見通しを持つことができる、とした。

基本的にⅡ期、Ⅲ期でも行うことを前提としている。Ⅱ期は、プランニング。中学校の体力テストで返ってくるものの裏面には「トレーニングプログラムを作成してみよう」というのが

ある。だからここでプランを作成するのがⅡ期の目標。Ⅲ期は、今度は「Do」、「Check」という感じで、作ったプランを実践して、改善していける。それがⅢ期の目標。

第Ⅰ期は大まかな見通しを持つ。具体的には、添付した資料、ワークシートで、大きな2番。自分の体力を高めるために、どのような運動や遊びを行うとよいか、それを考えようということ。4年生なので、プランニングして運動に取り組みと言うとトレーニング的になってしまうので、運動をやるときにこの点を頑張りたいという意識付けをする。また普段の生活で、こんな遊びや運動に取り組みたらいいというものを資料の中からチョイスする。自分で考えて「やってみたい」、「やれたらいいな」、「やってみる」から「できたらいい」というのが大まかな見通しを持つという位置付けにした。第Ⅱ期になると細かい運動のプランニング。そして第Ⅲ期で実践して自分で修正。高校に向けて部活動をもっとやりたいとか、こんな運動を中心的にやりたいというところへつなげていければと考えた。

期待される効果として、Ⅱ期・Ⅲ期においても、実践する時間を設けて、取り組みをやっていく。データが蓄積されることで継続的な指導にも生かしていける。

裏面に本時の略案を書いた。「自分の体力調査の結果用紙を見る」ということで、本来はまっさらのものを提示して、児童が実際にやる。4年生に自分で体力の要素を確かめる方法を伝えて実際に作業をさせる。自分の体力の様子、良い点、不足している点などをワークシートに記入する。今後どんな運動や遊びに取り組みだらいいかをワークシートの2番で書かせる。

もう一つ、「体力を高める運動や遊びの例」という表を作った。大変力がつくものは二重マル、やると力がつくというのはマルを付けた。

易しい言葉に置き換えた。瞬発力ではなくて「一瞬に出せる速さ」、筋力ではなくて「筋肉の力強さ」、筋持久力ではなくて「筋肉の長続きする力」、全身持久力ではなくて「長く続ける力」とか。このあたりでやってみたいところを選ばせて、普段の生活にこんなことをやりたいと書かせる。それから体育の授業でも、「これをやるときには頑張ろう」とか、そんなところがあれば書かせるようにしたい。最後に今日の学習の感想をワークシートに記入する。交流も必要なので、全体で感想を発表しながら、「あの子はこういうことをやるのか」という他人の意見も聞く。そして最後に担任のまとめと話で終わるというかたち。中学年だったら、自分で考えて作るのは無理だと思うので、遊び・運動の中で選ばれたものの中からチョイスするならできる。

#### 事務局

それを体育の授業と普段の生活の中で分けて、振り返らせたり、イメージ化させたり。

たとえば「缶蹴り」とあれば、缶蹴りをするとき「これは自分のためになっているんだな」という意識が持てるのではないかと。

#### 委員

そういうことをやっておけば、次にⅡ期で運動の本格的なプランニングで、部活動などにもつながっていくイメージもある。実際に中学のものを見せてもらった、「トレーニングプランを立てよう」みたいな資料があったので、その程度でもいい。これは指導がなされていけば、体力向上にとっての意識付けだとか、実践につながっていく。それから、区でやっていくことを活用して、子どもたちに指導していく価値もあると考えた。特に表の「運動の効能」のところ、二重マルとマルのところを見ていただきたい。普段子どもたちがやりそうな運動

だとか、遊び。ほかにもあれば、項目を増やせる。

**委員**

竹馬、一輪車。

**委員**

それは何に入るか。巧緻性は、すばやさなのか。体力テストの場合は、すばやさ・敏捷性に入っている。竹馬とか一輪車を入れたほうがいい。学校にあって、よくやっているものだから。

**部長**

小学校では最近ポートボールはやっていないのか。

**委員**

一昔前でいうエンドボールみたいな。ボールゾーンの中にいる人にボールが渡れば点数になるみたいなもの。名前はいろいろあってエンドボールとか、ネットボールとか、いろいろ。

**委員**

5、6年生でバスケットボールはあり、入れたほうがいい。

**アドバイザー**

一応、学習指導要領に出ている運動は入れたほうがいいかもしれない。ソフトボールとか。

**事務局**

中学校の学習指導要領には、保健体育の解説にそれぞれの種目に関連して高まる体力要素が全部明記されているので、参考になるのではないかと。

**委員**

器械系はどうか。跳び箱なんて日常の遊びではやらない。

**アドバイザー**

馬飛びを今はやらない。ふざけ半分でやってけがをした子どもが多かったから、禁止された。

**委員**

器械運動は鉄棒とか雲梯が校庭にあるから入れた。あとは滑り台とか、ブランコまで。

**アドバイザー**

この表で一番気になるのは、巧緻性みたいなこと。器用さみたいなことを「力」として起こすのか、それとも動きのすばやさの中に含んでいるのだったら、括弧をして入れてしまうとか。そうしないとバランスが悪い。



**委員**

巧緻性はやはり大事。ただこれには要素として、巧緻性は載っていないが、なぜか。

**アドバイザー**

もうその種目がないのだろう。

**委員**

敏捷性のところに、何と書けばよいか。

**アドバイザー**

たとえば「器用な身のこなし」という感じになるのではないか。

**委員**

一輪車と竹馬は器用な身のこなしか。基本的にバランス感覚か。縄跳びはもう入っている。このへんをちょっと付け加えて作っておく。

**アドバイザー**

中学校にはカードのほうに調整力と平衡性が出てくるが、小学校にはない。

**委員**

これを基にするからどうしようかと。こちらには調整力とか平衡性とか、バランス感覚と器用さというのはあるが、小学校はない。

**委員**

中学は一応、巧緻性の項目として、ハンドボール投げが新体力テストに入っている。ハンドボール投げは巧緻性と瞬発力。先に出ていた一輪車は平衡性で出ている。

**事務局**

運動の力の噛み砕いた説明というのは、改めて難しい。

**委員**

4年生バージョンにしたので。もちろんⅡ期、Ⅲ期になれば専門的な用語で、そのまま使っ  
ていい。使う側が自分なりに変えてもらって、子どもに提示してやってもらえばいいので、あ  
まりこだわっていない。ただ項目として、例示として必要なものだけあればと思っている。

筋肉は悩む。筋力とか筋持久力とか瞬発力とか。

**部長**

「筋肉の長続きする力」。「長く続ける力」。

#### 事務局

今のところであれば、「強い力を長続きさせる力」とか、どういう言い方がいいのか。

#### 委員

4年生で瞬発力とかは難しい。単純に「筋肉の強さ」とかでもいいのでは。

#### 委員

「筋肉の強さ」はある。「筋肉の力の強さ」。そこはそれでいい。瞬発力というのは、一瞬のスピード。こちらは強さだから、握力など。こちらは長続きする力だから、規則的にやる。そして長続きするのは心肺能力だと思う。言葉を易しくするのが難しかった。ぜひあったら教えてほしい。質問が来たら、たとえば腕立てでずっと何回続けられるかみたいなことだよと。こちらは筋肉の強さだから、何キロのパワーが出るかだよと、言うしかない。

#### アドバイザー

4年生だったら、筋肉の力の強さ1本にしてしまっても。そんなに厳密にやる必要はないかもしれない。

#### 委員

公表に項目が出ているので、このまま使ってはいけないのか。それで筋持久力というと「筋肉の長続きする力」とか、そういうことを括弧付けで書いたほうが。5、6年になっても、中学に入ってもこの言葉は体力要素のことで絶対に出てくる。だからそれを出しておいて、括弧で書いたほうが、今後も使えるのではないか。

#### 委員

今は解説文をどうするかということ。要素の説明は裏に書いてある。筋パワーは「野球のホームランやバレーボールのスパイクに見られる力」と。筋持久力は「長距離走や山登りなどが長続きする力」。次が全身持久力で「マラソンを完走したり」と同じで区別がない。裏にも体力要素がある。「筋肉の長さを変えずに」。この説明も難しい、わからなかった。

4年生だったらどれがいいか、直すので言っていたきたい。Ⅱ期・Ⅲ期のところはあの程度でいいか。本当は自分がイメージしているのはそこなのだ。目標、ねらいとするところがレベルアップしていくという。今回は第Ⅰ期ということだったので、そこはちょっとしか触れていない。中学ではプランニングみたいなものを行っているのか。

#### 委員

私は中学で、同じような感じで作ってみた。スポーツテストが終わった後に、時間をかけた指導はあまりやらない。一応そこに挙げたのが、単元名、目的、指導感については今までのところをまとめたもの。授業の展開と体力テストの振り返りシートは並行しながら、これを書かせていこうと思ってやってみた。

体力テストの結果が返ってきたものをまず見させて、その8種目の大まかなところをチャートに写して、自分の強いところ、弱いところをまずは把握させる。その後、友達がこの結果を

見てどのように考えているのか、グループでの話し合い。そういうかたちで、周りの人の意見を聞いて、自分の意見もまとめていく。最終的には、自分の一番体力的に弱いところを拾い上げて、今後どのように自分の生活の中やいろいろな運動、体育などの中で補っていくか。逆によいところを拾い上げて、それをなお高めさせる。どのように今後やっていくのかという話し合いをさせて、最終的に自分でまとめる。このような学習指導案を作った。体力の種類ということで、実はこれをまったく捨てた。それぞれの8項目が何に関係しているか。たとえば握力が筋力とか、長座体前屈が柔軟とか、反復横とびが敏捷性とか、ハンドボール投げが投力とか、そういうかたちで、体力とはどういう感じかを最後のところに入れた。そんなには難しくはない。1時間程度。

中学校は実際には資料が来てデータが戻ってきたときに、配りながら裏表について話をする。でも、それに対して自分はどのような補いをしていくのかまで考えて、残すところまではやっていない。保健体育でやるが、時間を取るのが大変だ。中学校はスポーツテストをある程度時間を取って一斉にやっているところもある。行事関係。体育の授業の中でもやる。学級活動で取るところは少ないのではないかと。総合に引っ掛けているところはあるかもしれない。ある程度、中学校2、3年生になると、体力的にも出来上がっていて、二極化が出来上がっている。

#### 委員

私が中学校のものをを見せてもらったときに、裏にトレーニングプランが出ているので、それをやっているのかと思った。逆に言えば、中学校の段階でいきなりトレーニングプランを作れといっても無理だ。もっと初期の段階で、「何か見通しを持って取り組もう」みたいなことを経験しておかないと何をやればいいのかわからない。

#### 委員

子どもたちが一番興味あるのは、自分の入っている部活に対して、上手くなるためにどうしたらいいか。

#### 委員

4年生でⅠ期のまとめの段階で自分の体力を1回振り返る。7年生で、Ⅱ期のまとめの段階。Ⅱ期は体力が急激に伸びてくる時期なので振り返りがある。Ⅲ期は振り返らなくても、ある程度は自分でわかる。だからⅠ期とⅡ期の終わりで振り返りをさせるのが一つの手かと思う。

#### 部長

ただⅡ期の終わりという中1で、特性はまだ出きっていない。本当は2年生くらい。特性が出ていない状態の中で、どうなのか。

#### 委員

8年生ならこれは十分に可能だ。

#### 委員

2、3年生あたりになると、グループ活動の話し合いで「おれはこうだ」、「お前はこうだ」

とお互いに言い合えるような感じになる。1年生では難しい、言われたことしかできない。

アドバイザー

2年生だと、1年間の部活動の成果が直接ここに跳ね返ってくる子も出てくるだろう。やはり中2くらいのほうがいい。

委員

資料は、もし紙面が許すのであったら、中2とつけたほうがいいのではないかな。

事務局

第Ⅰ期・4年生のところと第Ⅲ期中2で、体力テストを活用した自分の振り返りの授業。これを提案する。内容的には、今内田先生からいただいたものでいいかな。

アドバイザー

リーダーチャートのポイントはどれを見て書けるのかな。

委員

リーダーはシートに付いてくる。付けたパックの中にも書かれてくる。

委員

今回のものと前回のものをここに色別に入れれば。上がったか、落ちたかしている。

アドバイザー

第一学習社のものは、要素がGスコアで出てくる。こちらはそれぞれの体力テストの項目ごとに記入するようになっているのでいい。その点数を子どもたちは何を見て入れていくのかな。

委員

点数は入ってくる。

委員

10段階評価の。たぶんこの評価のところに出てくる。1、2、3年度が全部ここに重なって出てくる。だから要素的にはわかるので、これをこの運動項目に書き換えればよい。

アドバイザー

細かいけど、これを写して、もうちょっと大きくしたほうがよい。

委員

スポーツテストの中には総合評価もあるが、これも生かしたほうがよいかな。

委員

総合評価が生きてくるのは、運動する子としない子の二極化。しない子はEとかが付いてし

もうし、している子はAとかBとかが付く。

#### 委員

でも子どもたちの話の中では、このA、B、Cというのは出したくない。触れたくないと思うので、敢えて入れなかった。

#### 事務局

それでは、私から2点ばかり確認をさせていただく。今の体力テストの活用の授業だが、中学校の指導に関しては、体育理論で扱うことになっている。だから、学級活動というよりは、むしろ保健体育科の教員が授業の中で扱うほうが流れとしてはよいか。小学校では特に体力を扱う保健体育の内容はないのだが、学級活動で進めていくほうがやりやすいか、体育の授業に位置づけたほうがやりやすいか。

#### 委員

体力テストそのものが、何の時間で取るかというところもある。体育の時間がきゅうきゅうなので、基本的にとってほしくないということが多い。どこで捻出するかという学級活動。学級活動の目的は、自己の諸課題を学級全体で取り組んで解決していくこと。そこと結びつけて、学級活動で自分の体力に関する諸問題を、自分の分析とみんなと関わりながら解決していく活動と捉えて設定した。

#### 部長

渡邊先生が言ったように、体育の授業の中でやったほうが手取り早い。授業も担任に振るのではなくて、保健の授業の中でやったほうが意図は徹底できる可能性が強い。

ただ学級活動として、教員全体の意識を高めて、一貫教育の視点を体力という部分で高めていく、見ていくのだという視点から見れば、学級担任にその内容を振って、学級指導の中で指導していく視点も決して無駄ではない。先ほどのこれからの進路に向けての生活の仕方という部分に関しては、担任もかなり関与してくる。しかし体力ということを考えれば、保健の授業で扱ったほうがよい。わざわざ担任に振らなくても、そのほうが早く済む気がする。

#### 事務局

仮に小学校は学級活動、中学校は保健体育。この位置付けで捉えたときに、違和感はあるか。

#### 委員

同じような内容を指導するのに、かたや学級活動で、かたや保健体育でというのはある。

#### 委員

先生たちの感覚も違う。中学校のほうは、もう体育の先生がやってくれるからと、ほかの先生はあまり細かいこと、この中の体力云々については、全部が全部はわからない。

担任は、テストを分担してやるから、ある種目には関わる。たとえば体育の授業でみんなやってしまっていたら、先生たちは全然わからない。

**委員**

小学校は学級担任制で中学は教科担任制だから、当然それはあっている。

**事務局**

位置付けが違ってくる。もう一つは、中学校は学習指導要領で体力テストについては扱いなさいということがあるので、授業で扱って当然でおかしくない。ただ小学校の保健の中には、そこまでのものがないので、学級活動で取り扱っても、まったく問題はない。

**委員**

子どもにとって何が一番いいのかを考えれば、中学は体育で、小学校は学級活動で扱う。

**部長**

中学校は、体育の教員が指導したほうが説得力があるだろうし、子どもたちも納得できると思う。小学校は、担任の先生が直接体育を教える場合がほとんど。そういう観点からすれば、小学校が学級担任制で、中学校は教科担任制だから、割り切ってよいのではないか。

**委員**

私のほうも最初のを保健体育科でやるということか。

**部長**

そのところはまた視点が違ってくる。それはそのままよいのではないか。ただ、保健の授業の延長の中で6時間目に設定してやる場合に、学年の先生にその意図をしっかりと伝えるというプラスアルファの仕事が授業者には出てくる、企画したものの中には出てくるということが大きな課題かと思う。

**事務局**

もう一つ、本区は小3から体力テストを行っているが、3～8年の中での体力の蓄積を見られる表が今のところない。9年間のうち、体力テストを行うのはこの7年間で、体力の足跡を見られるものがあるといいという話し合いがあった。これが新体力テストの活用においては大きなものではなかったか。単純に3年生から9年生まであって、それぞれの種目ごとに折れ線グラフで追っていくかどうか。それはどのようなまとめになっていくのか。

**事務局**

高橋先生に、今あるものを資料提供してもらうことにしている。

**委員**

データベース化するという。ただ3年生からの蓄積を個人作業でデータベース化はかなり難しい。だから業者さんに頼めないかという話だった。たとえば小中一貫になったときに、ずっと在籍する子が3年生から9年生までやったときの個人データの伸びというか偏差みたい

なもの。そのデータベース化は個々で残しておくのはかなり難しい。

#### 事務局

Tスコアとか、細かいデータではなく、前回資料提供をお願いしたのは、昨年度の記録はこうで、その記録をただ自分で折れ線グラフか何かに打っていくくらいの非常にシンプルなものだったのではないか。

#### 部長

たとえば4年生と中2で自分のデータを省みる時に、4年生のときに3、4年の2年間と、中学校2年生のときに小学校の第I期から現在に至るまでのデータを業者に依頼してやっていくことは不可能なことなのか。

#### 委員

一つは業者に頼めるかどうか。もう一つは7年分をホルダーに保管できるかどうか。どちらにするか。業者ができないのであれば、ホルダーにして保管するしかない。そのまま保管するのか、家庭に返してそのコピーを保管するか、ホルダーの作り方をどうするのか。それはその学校のやり方だろう。

#### 委員

個々の個人データは、分厚い冊子になって来ている。それで子どもに返すこのシートと学校残しの台帳はある。ただ問題は、見たときに一目に伸びがわからない。

#### 事務局

それを視覚的に見取れるような資料があったかなと高橋先生が言われていたような。

#### 委員

それを個人のデータとしてホルダーしておけば、ある一定の時期に振り返るときに、それを出して見ることは可能。その程度でよいのではないか。

#### 委員

たとえば50メートル走はみんな共通してやる。1秒速くなっても、周りがもっと速くなっていれば、Gスコア的には伸びは5だ。そういうデータが蓄積されて、「おれはこの時期によく伸びた」、「秒数は速くなっているけれども、相対としては伸びていない」とか、本来はそこまでわからなければいけない。でもそれを紙ベースでやるのは無理で、データベースで業者が持っていればそれは可能だと思う。それができないのであれば、どうにかたちで紙で残しておくか。一番簡単なのは、来ているものをそのまま個人データとして残せばいい。でもデータとしてしか残らないので、前年度比較は個々に指導して分析しないとできないという状況。

伸びも単に、50メートル走で秒数だけが上がっていけば伸びている。へこめば大変なことだと思うが、その伸び自体が良いのか悪いのかというのは、相対的に比べなければいけないから、難しい問題だと思う。データの蓄積だけだったら紙ベースで持っていればいい。ただその前年

度と比較して上がっているのか、良いのかというところまでやるのであれば、業者に頼んだ専門的なデータベースで個人データの蓄積をやってもらわないといけない気がする。

**委員**

そこまで必要か。

**委員**

必要性はある。紙だけで残すなら今、学校に来ているものを保存しておけばいい。

**アドバイザー**

業者に頼むことの意味は、先生たちの手間の問題。それをどうやって省くかということ。いずれにしても子どもに返すわけだから、そんなに細かいものは必要ない。たとえば 50 メートルのタイムが、練馬の小中の中で自分で見取れるようなもので、最後は本人に返っていくものがあればいい。

**部長**

小中一貫教育の特性として、そういうデータが残せることを今回の会で取り上げるのは、とても大きい意義がある。だから、どうかたちであっても残していくことは必要と以前に確認された。

**事務局**

非常にシンプルなものด้วย。9年生になったときに、3年生からどのように変遷したのか。必ずしもずっと昇っていくわけでもない。だからそういう蓄積が見られるだけでも、体力の振り返りをするときに、一つの参考資料になるのではないか。グンと上がったとき、このときは部活で頑張ったからとか、そういう背景を振り返ったりもできる。

ここは高橋先生に資料の確認を取って、次回提示いただきたい。これで本日は終了である。次回は9月10日。このときに一応資料がすべて揃い、皆で最終確認をと考えている。

**アドバイザー**

一つ懸案なのは、畑先生のもの。保健の中身をそのまま学級活動の中で振り返るような授業にすると、担任からすれば「そこまでは指導できない」とか、「そんなことはわからない」となってしまう。純粹に学級活動という狙いで授業を組み立てたほうがよいのではないか。

**委員**

次回までに完成原稿を持ってくるということ。原稿ができた段階で渡邊先生に見ていただいたほうがよいか。

**事務局**

もし送っていただければ、こちらで資料として準備できる。



委員

10 日までに持ってきて、最終チェックして直しがあれば、直しを送ればいい。

事務局

あと 30 日にもう一回あるので、そのときにほぼ完成でもっていきたい。

委員

最終的に先生にお渡しするのはデータか。紙ベースか。

事務局

データで、グループウェアで大丈夫。その最終ゴールがどこかというのは確認する。